

たてはく

令和7年度前期特別企画展

立山を描く ―山に向けられたまなざし―

会期：令和7年7月19日(土)～8月24日(日)

山は、古来、人々の崇敬を集め、神の山とされた「立山」も人々の心を捉えてきました。立山が文献に最初に登場するのは、奈良時代末に成立した『万葉集』とされます。いつ絵に描かれるようになったかは定かではないものの、江戸時代中期の、池大雅『三岳紀行図』（京都国立博物館蔵）や谷文晁『日本名山図会』（個人蔵）などが知られています。

西洋文化の流入を受け、近代的な考え方が広まると、絵画表現は特に明治時代以降、伝えるためのものから、表現自体を意識したものへと変化を見せます。そして、山は芸術表現の主題の一つとなり、徐々に普及する写真や映画の題材になるなど、さまざまに表現されるようになりました。

本展では、歴史的経緯を踏まえつつ、近現代の表現を中心に多様な視点による立山の姿を紹介します。これにより、立山をあらためて見つめる機会となれば幸いです。（鈴木博喬）

この企画展は、四館連携事業（富山県美術館、富山県水墨美術館、富山県[立山博物館]、高志の国文学館）の一環で開催します。

企画展担当学芸員による展示解説会

7月19日(土)、8月2日(土)、8月16日(土)

いずれも14:00～15:00

※申込不要、企画展観覧料が必要



開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室
 開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
 観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料
 会期中の休館日 7/28(月)、8/4(月)、8/18(月)

※7/18(金)は、企画展の準備作業のため、臨時休館します。

目次

令和7年度前期特別企画展

立山を描く ―山に向けられたまなざし― 1

たてはく新任紹介 2

祝 まんだら遊苑開苑30周年記念イベントを開催！ 2

学芸課発 立博雑学 第17回 有頼、倒れる!? 3

文化観光事業

立山博物館が魅力アップ！展示館2階をリニューアル 3

ボランティア活動報告 立博ボランティア、春から大活躍！ 4

[夏の催し] ナゾを解いて、“おたから”を探せ！ たてはく探検隊、出動!! 4

夏の夜、3時間だけの「地獄博物館」がやって来る！

ミュージアム de ナイト in 芦峯寺!! 4

まんだらナイトウォーク ―光りと香りのページェントー 4

編集後記 4





たてはく新任紹介



館長
高野 靖彦

このたびの異動で立山博物館長に着任いたしました。3度目の勤務であり、多くの皆さんからお帰りなさいと温かく迎え入れていただき、大変有り難く思っています。県立博物館長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いでございます。微力ながら立山博物館のさらなる発展に全力を尽くす所存です。

今年度、野外施設のまんだら遊苑が開苑から30周年の節目を迎えます。当初、まんだら遊苑内は撮影禁止でしたが、令和元年から撮影を解禁したところ、SNS等での発信が増加し、いまや県内外からの観光客の人気スポットになっています。設計者の六角鬼丈氏（故人）、制作者をはじめ多くの方々の思いが込められた施設であり、記念イベントやパネル展示などを通してこれまでの歩みを振り返るとともに、さらなる魅力と可能性を掘り起こす機会になればと思います。

また、令和5年度から始まった「立山博物館を中核とした文化観光拠点計画」の取組みが3年目を迎えます。立山信仰1300年ストーリーの展示をさらに磨き上げ、インバウンド対応や動画コンテンツなどの情報発信も強化します。さらに、「日本三霊山」を活用した地域連携、県立四館連携、立山周辺連携など、外部との連携強化も進めてまいります。

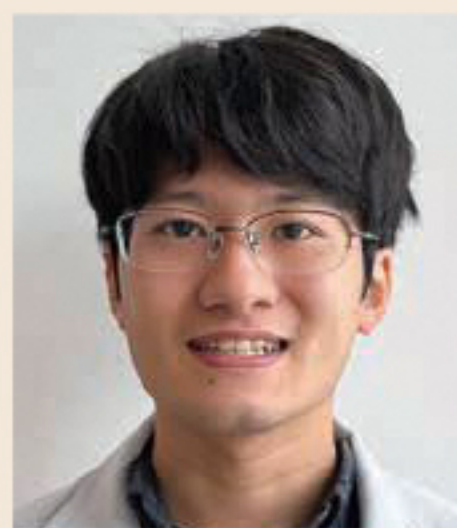
次世代を担う人々に何を残し、伝えていくのかという博物館の使命を見失うことなく、博物館スタッフの一員として、新たな時代に向かって勇往邁進していく所存です。皆様には、どうか今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学芸課長
森山 義和

このたびの人事異動で入善高校から赴任いたしました。以前、4年間勤務させていただいた際は、博物館や芦峯寺の方々の温かい心に支えられながら、特別企画展の準備や調査研究に取り組んでいたことを覚えています。高校現場でも博物館で得た知識を探究活動で活かす機会があり、生徒とともにその成果を県内に発信することができました。再び勤務できることを嬉しく思っています。

1日も早く博物館の戦力となれるよう、さらには立山の自然と素晴らしい文化を国内外の方々へ発信できるよう努めてまいります。今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。



学芸課学芸補助員
上利 理峰

4月1日より、立山博物館で学芸補助員として勤務しています、上利理峰です。昆虫を専門としており、自然史分野を中心に担当いたします。立山博物館は、立山の自然と人との関わりを多角的に伝える場であり、その一員として関わられることを大変嬉しく思っています。立山の豊かな自然やそこに息づく生きものたちの魅力を、さまざまな形でわかりやすく丁寧に発信できるよう努めてまいります。未熟な点もまだ多いですが、立博の皆様や、来館者の方々と共に学びながら成長していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

く丁寧な発信できるよう努めてまいります。未熟な点もまだ多いですが、立博の皆様や、来館者の方々と共に学びながら成長していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

祝 まんだら遊苑開苑30周年記念イベントを開催！

平成7年（1995）7月7日、立山曼荼羅の世界を造形物や光、香りなどの演出により五感で体験する野外施設として、六角鬼丈氏が設計した「まんだら遊苑」が開苑しました。令和7年7月7日、開苑30周年を迎える記念すべき年に、記念イベントを実施し、これまでの歩みを振りかえるとともに、まんだら遊苑の新たな魅力発見の機会とします。



(1)開苑30周年記念講演会（文化講演会）

演 題：「まんだら遊苑 これまで と これから」

講師・モデレーター：六角美瑠氏

（六角鬼丈計画工房代表・神奈川大学建築学部教授）

パネリスト：吉武利文氏

（香りのデザイン研究所・別府大学客員教授）

高谷 光氏（六角鬼丈計画工房）

佐伯照代氏（立山博物館ボランティア代表）

米原 寛氏（立山博物館元館長）

開催日時：7月6日（日）13:30～15:00（開場は13:00～）

場 所：立山博物館・遙望館

定 員：100名（先着順）※聴講料は無料

◎まんだら遊苑30周年記念イベントは、公益財団法人富山県文化振興財団が共催しています。

(2)まんだら遊苑スペシャルツアー

コンダクター：六角美瑠氏、吉武利文氏、高谷光氏

開催日時：7月6日（日）15:15～16:45

集合場所：立山博物館・まんだら遊苑 地界入口

※15:15までに集合してください

参 加 料：通常の入苑料（一般400円）

※講演会参加者は無料でご招待

●記念展示「建築家・六角鬼丈 まんだらの創造」

まんだら遊苑のコンセプトに関わる資料や模型などを展示し、建築家・六角鬼丈氏の世界を紹介します。

会 期：令和7年6月17日（火）～8月31日（日）

場 所：立山博物館・遙望館 エントランス

※遙望館が開館しているときにご覧いただけます。

展示の観覧のみは無料。





学芸課発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博^{うんちく}についての蘊^{うん}蓄^{ちく}や魅力を、雑学としてお伝えします。

第17回 有頼、倒れる!?

立山開山説話では、有頼は熊を追う途中で様々な試練を乗り越えながら玉殿窟へ向かいます。以前、小誌で「称名川をどうやって渡ったか?」という説話を紹介しました(『たてはく』124号参照)。では川を渡ってからは何があったのでしょうか?

説話の中には、有頼が草生坂で倒れてしまう話もあります。実際、立山曼荼羅に1点だけ、称名川を渡った後に倒れた有頼を描いたものがあります(写真1参照)。絵解きの中でもそんな話が語られることもあったのでしょうか。

その後は、神仏のご加護や自力で回復し玉殿窟へたどり着くのですが、なぜ倒れ、またどうやって回復したのかは、芦峯寺と岩峯寺それぞれに少し違った説話が伝わります。

鹿と遭遇し、その毒で倒れる有頼

猿が作ってくれた橋(藤橋)で川を渡った後、黄金坂で「黄金の鹿」に出遭い、草生坂では有頼がその鹿の放った毒に当たって倒れてしまいます。でもそこに現れた神仏から解毒の薬草を教えられ、それを口にして回復したという説話—これは芦峯寺に伝わるものです。

空腹で倒れる有頼

黄金の獅子(猪)の背に乗って川を渡った後草生坂まで来ると、疲れや空腹で倒れて動けなくなってしまう。しかし、そこに生えていた草を手当たり次第に食べると元気が出てきた、という説話—これは岩峯寺に伝わるものです。

草生坂の先にも数々の試練の話があります。それらの説話は、有頼が試練に負けない、立山を開くに相応しい立派な少年であったことを強調し、同時に草生坂は有益な植物が繁る場所であると喧伝しているようです。

(吉野俊哉)



(写真1) 倒れた有頼に注目!
「立山曼荼羅」立山博物館I本、当館蔵(部分)



(写真2) 熊を射た時の有頼
「立山曼荼羅」立山博物館I本、当館蔵(部分)

文化観光事業

立山博物館が魅力アップ! 展示館2階をリニューアル

立山博物館では、文化庁の認定を受け「立山博物館を中核とした文化観光拠点計画」に取り組んでいます。2年目となる昨年度は、常設展示「立山信仰の世界」の改修を行いました。主な内容は、2階全体の案内を追加。6つのゾーンサイン、解説パネル・キャプション等や案内表示の更新・追加。立山開山伝説、立山地獄、立山登山案内図のタッチパネルモニターによる紹介の新設。「新しい時代の中へ」ゾーンの内容見直し。ケース内照明のLED化などです。これにより、より鑑賞しやすく、理解しやすいものになりました。

このほか、室堂周辺に、立山曼荼羅のタペストリーや立山信仰と関連が深い場所を紹介するサテライト展示を設置したほか、旧嶋家住宅・善道坊の解説案内板新設、英語版ウェブサイト開設を行いました。いずれもインバウンド対応の多言語化をおこなっています。

(鈴木博喬)

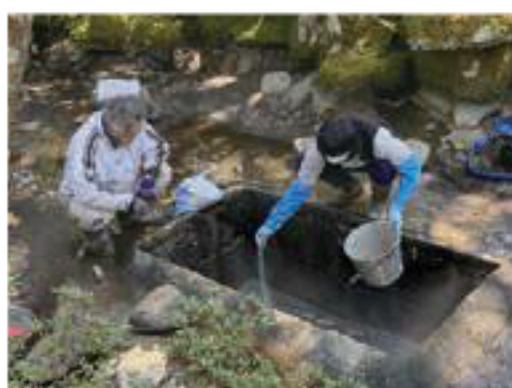




ボランティア 活動報告

立博ボランティア、 春から大活躍！

- 4月12日(土)、ボランティア総会を芦崎公民館で開催し、佐伯照代代表の進行のもと、ボランティア募集の拡充、教養講座の充実についてなど、活発な意見がかわされました(参加者15名)。また、総会後には第1回教養講座として、学芸課の河野史明が「立山に登った英国人」と題して講演しました。アーネスト・サトウやアトキンソンの立山での足跡を振り返りました。
- 4月26日(土)の午前中には、毎年恒例の教算坊の池掃除を行いました。池の水を抜いて泥や落ち葉を掻き出し、池底や石積みなど隅々まで磨きました。
- 5月3日(土・祝)、4日(日・祝)の2日間、ボランティア有志による「立山博物館コンシェルジュ」を実施し、芦崎寺集落を楽しく会話しながら参加者を案内しました。天気に恵まれ、県内外、親子連れなど、のべ25名もの利用があり大盛況でした。
- 5月5日(月・祝)、6日(火・振休)の2日間、「しゃぼん玉デーin教算坊」を開催し、沢山のしゃぼん玉と庭園の緑が重なる綺麗な景色を演出したり、しゃぼん玉セットの配布やお茶出しなども行ったりしました。多くの笑顔が溢れる素敵な2日間となりました。(河野史明)



文化振興財団 主催

まんだらナイトウォーク -光りと香りのページェント-

まんだら遊苑の夜間開苑として好評を得ている「まんだらナイトウォーク」を今年も開催します。

闇夜に照らされる幻想的なキャンドルなどの光りとアロマの香りによる美しく幻想的な世界を楽しんで下さい。また天界須弥山付近では今年も大量のしゃぼん玉を飛ばします。

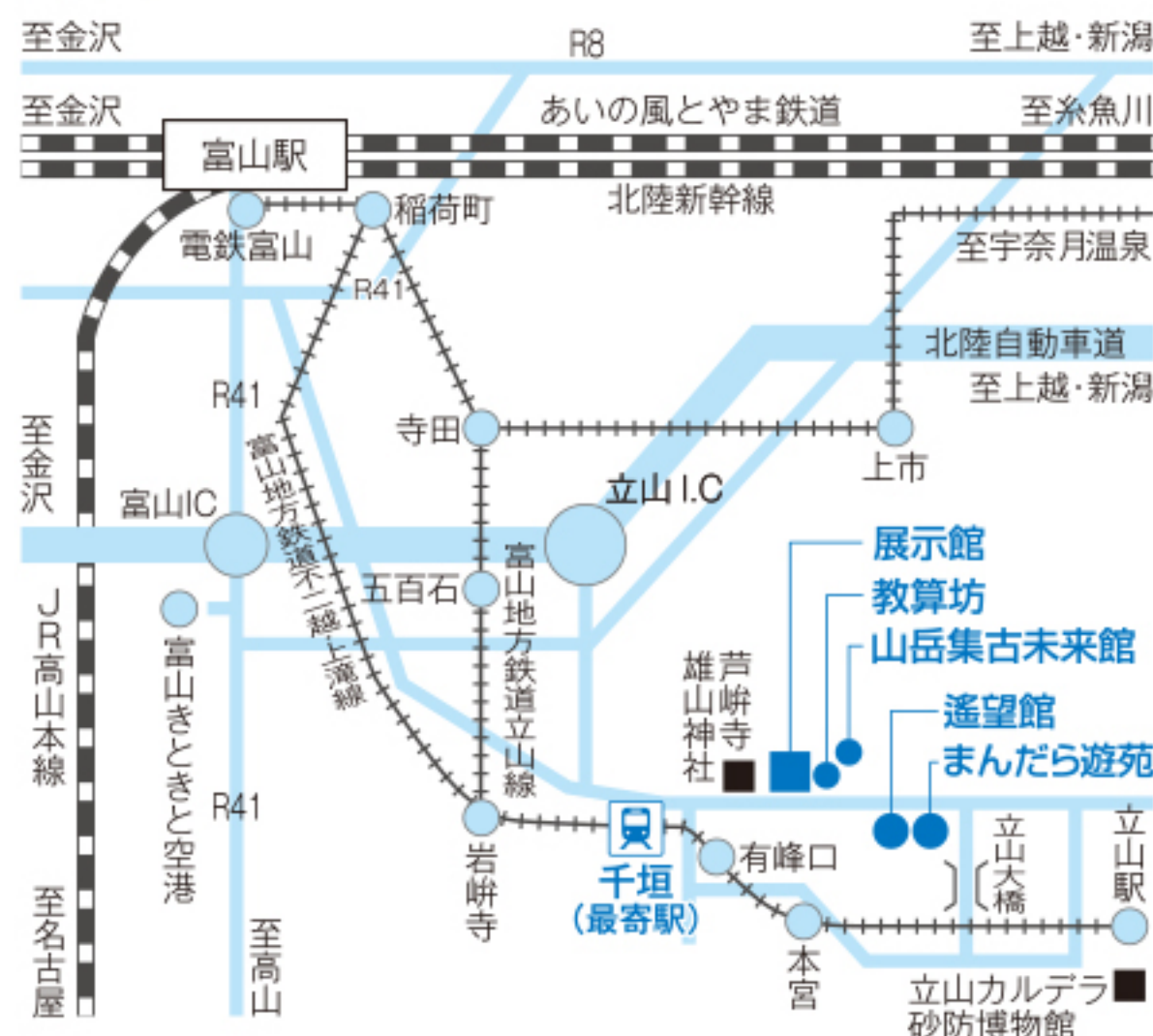
去年は荒天のため1日だけの開催でしたが、今年は天候良く2日間とも開催されることを祈っています。

当日の入場方法などについて詳細は後日博物館のホームページで発表します。皆さんお楽しみに。(毛利成宏)



- 開催日 9月6日(土)・7日(日)
- 時間 18時30分～20時30分(入苑は20時まで)
- 観覧料 一般400円 ※大学生以下、70歳以上は無料

案内図



夏の催し

ナゾを解いて、“おたから”を探せ！ たてはく探検隊、出動！！

立山曼荼羅に描かれた不思議な世界。えんま様のお話に隠されたメッセージ。そして、大切な行事として行われていた布橋灌頂会――。

それらを手がかりに、館内にちりばめられたナゾを解き明かそう。ゲームやクイズにチャレンジしながら、立山のふしぎやひみつを楽しく学べる体験イベントです。

すべてのミッションをクリアした隊員には、素敵な“おたから”が待っている…!!

立山の壮大な自然と物語に触れながら、心おどるひとときを。ちびっこ隊員のみなさんの参加を、心よりお待ちしております。(上利理峰)



- 開催日時 7月20日(日) 9:30～12:30
- 開催場所 展示館、教算坊、閻魔堂ほか
- 対象 小学生(保護者同伴)
- 参加費 無料(ただし、事前申し込みが必要)
- 定員 25名

※申込方法などの詳細は、立山博物館HPまたはチラシをご覧ください。

夏の夜、3時間だけの「地獄博物館」がやって来る！ ミュージアムdeナイトin芦崎寺!!

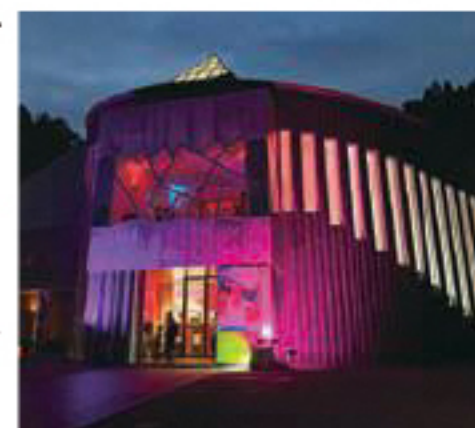
博物館が地獄色に大変身!展示館や教算坊のライトアップはインスタ映え間違いなし!今年も、お楽しみイベントが目白押し!

普段とは一味違う「夜の立博」にぜひ足を踏み入れてみて下さい。(森山義和)

◎家族で楽しめるクイズ対決。

◎楽しみながら博物館をまわる地獄スタンプラリー。

◎江戸時代の雰囲気も味わえる旧宿坊で「立山曼荼羅絵解き解説」口演。



- 開催日時 8月9日(土)、10日(日)
- 時間 18:00～21:00(入館は20:30まで)
- 会場 展示館(常設展・企画展)、教算坊、山岳集古未来館
- 観覧料 一般500円、70歳以上200円、大学生100円

※高校生以下は無料、教算坊と山岳集古未来館は無料

編集後記

令和7年度がスタートしています!しかも、今年は「7」が3つ並ぶ、令和7年7月7日にまんだら遊苑が30周年を迎えます。年は違いますが…、私と誕生日が一緒(笑)。勝手に、深い縁(繋がり)を感じています(H)。

●最寄り駅

富山地方鉄道立山線「千垣」駅下車徒歩約30分(約2km)
※日曜・祝日・8/14～16・12/29
～1/3を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で

JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分



立山博物館のHPはこちら

人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦崎寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

でも情報発信中 立山博物館